

# サトイモ疫病を防除するには！

～効果的な薬剤散布～ 農林水産研究所

サトイモ疫病の登録農薬

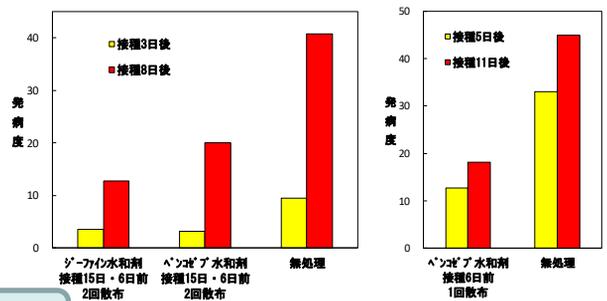
R6. 9月現在

農薬名(希釈倍数)	使用時期	使用回数	期待できる効果
ジーファイン水和剤(1000倍)	収穫前日まで	—	予防効果
ペンコゼブ水和剤(500倍)	収穫7日前まで	2回以内	予防効果
ジマンダイセン水和剤(500倍)			
ランマンフロアブル(2000倍)	収穫前日まで	2回以内	予防効果
アミスター20フロアブル(2000倍)	収穫14日前まで	3回以内	予防とある程度の治療効果
ダイナモ顆粒水和剤(2000倍)	収穫21日前まで	3回以内	予防と治療効果
ピシロックフロアブル(1000倍)	収穫前日まで	3回以内	予防と治療効果
カンパネラ水和剤(1000倍)	収穫7日前まで	2回以内	予防と治療効果
ベネセット水和剤(1000倍)			

※ダイナモ顆粒水和剤は希釈倍数20倍と40倍で、アミスター20フロアブルは希釈倍数18倍で、カンパネラ水和剤及びベネセット水和剤は希釈倍数16倍で「無人航空機」での適用があります。

## ① 予防剤の散布は発病抑制効果が高い！

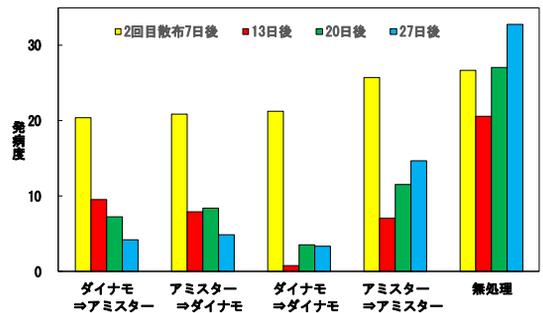
ジーファイン水和剤など予防剤の接種前散布区は、無処理区に比べて、発病度が明らかに低い  
→疫病の発生前に予防剤を散布することは、初発後も発病進展を抑制する効果が高い！



## ② 多発時には治療剤を連続散布！【緊急避難】

接種・発病後、ダイナモ顆粒水和剤など治療剤の7日間隔2回散布区は、無処理区に比べて、発病度が明らかに低い  
→特に多発時、治療剤の連続散布は発病抑止効果が高い

※多発時以外は耐性菌対策のため、同一薬剤の連続散布は避ける！！



## ③ 治療剤散布後に病斑の治癒をチェック！



＜薬剤散布前の病斑＞  
病斑の輪郭がぼやけている  
白色部分は遊走子の塊



＜治癒した病斑＞  
病斑の輪郭が明確に見える  
遊走子のうが消えている



＜治癒していない病斑＞  
病斑の一部がぼやけている  
(○印部分)

※治療効果を有する薬剤を散布した後は、病斑が治癒されているか否かをチェックし、追加散布の必要性を判断する！！

# サトイモ乾腐病ってこんな病気！

農林水産研究所

## 病原菌と被害

◎病原菌（かび）：*Fusarium solani*（フザリウム ソラニー）

◎被害：生育中の葉や葉柄に病徴が現れない場合が多く、収穫した芋を切断して初めて発病していることに気づきます。

芋を切断すると**赤色小斑点**や**赤褐変症状**がみられます。症状が進むと**スポンジ状に乾腐**して**空洞化**します。

被害の発生頻度は、親芋や子芋で多く、孫芋では少ない傾向にあります。

## 伝染経路

### 種芋伝染

病原菌が種芋に残存し、サトイモの生育中に親芋や子芋に伝染する



### 土壌伝染

病原菌が発病残渣とともに土壌中に残存し、サトイモの発根部や傷口から侵入する

## 防除対策

◎発病圃場からの採取芋は、外観健全でも保菌している可能性が高い

⇒種芋は無発病の圃場から収穫した健全な子芋、孫芋を使用しましょう。

◎病原菌は、被害残渣とともに土壌中に長く生存

⇒連作を避け、イネ科作物と輪作をしましょう。水田化は有効です。

⇒トラクターのロータリーに付着した汚染土（病原菌が残存）を他圃場に持ち込まないようにしましょう。

⇒土壌消毒（バスアミド微粒剤、キルパーなど）の実施

◎ベンレートT水和剤の種芋消毒（黒斑病に登録）は、発病芋率の軽減効果がみられます。

